

かけはし



体験したことは身につく！

いよいよ子どもたちにとって楽しい夏休みが始まります。夏休みは、今までの学習や生活を見つめ直し、2学期に備え志を新たに準備する絶好のチャンスです。この4月以来、身につけてきた学力を自分一人で試す機会でもあります。ご家庭では、「あゆみ」をご参考にさせていただきながら、お子様がよりよく伸びる話題と励ましの言葉をかけていただけるようお願いいたします。

さて、「聞いたことは忘れる、見たことは覚える、やったことはわかる」とよく言われます。この出展は、『荀子』儒効編の「不聞不若聞之、不之不若見之、見之不若知之、知之不若行之」（聞かないことは聞くに及ばず、聞くことは見ることには及ばない。また見ることは、理解することに及ばない。しかし理解することは、それを実践することには及ばない。したがって、学問は実践の段階にまで至って終わるのである）によるものです。体験活動の大切さ、また実践できる力を養うことの大切さをよく言い表していると思います。

体験には様々なものがあります。原体験、自然体験、社会体験、奉仕活動体験等に分けることもあります。学校生活の毎日にも新たな体験活動があります。休み時間に友達と遊ぶこと、給食の準備をしてマナーを守って食べること、掃除の時間に教室や学校の中をきれいにすること。まさに毎日が体験活動であり、その中で子どもたちは人間として必要なことを学んで成長しています。学んだことを知識として蓄えることが目的ではありません。今求められている力は、学んだことをもとに、自分で考え、創造し、実践していく力です。口先だけで屁理屈や言葉だけをべらべら並べ立てても、実践を伴わなければ何も身につきません。実践の段階では試行錯誤を繰り返し、失敗することも多いでしょう。逆に失敗の数だけまた成長していくのかもしれない。

体験したことを身につけるために三つの大切なことがあります。

一つ目は、その体験のめあてをしっかりと見つことです。ただ何となくやってみた、こんなことをやらされた、では何も身につきません。

二つ目は、体の全感覚を使って、「なぜだろう、どうしてだろう」と問いかけをもって考えることです。自分なりの考えをもち体験することで、より深く自分の力となります。

三つ目は、様々な体験の中で人との関わりを大切にすることです。一人ではできないことも力を合わせればできることがたくさんあります。力を合わせてできたことは何よりの宝となります。

夏休みのように長い休みにしか体験できないこともたくさんあります。子どもたちの安全確保のために、約束事をしっかりと守らせながら、有意義な体験活動ができる夏休みにしていただければと思います。また、これまで身につけてきた規則正しい生活リズムを大切に維持しながら、夏休みの経験や体験活動が、2学期からの学校生活をさらに充実させるきっかけや原動力になりますよう願っています。

（文責 山口 正文）